

「第2期伊勢市環境基本計画」策定のためのアンケート調査結果（速報）

実施概要及び回収結果

【調査目的】

「第2期伊勢市環境基本計画」の策定にあたり、市民及び事業所の環境に対する意識や、環境保全の取組状況等を把握することを目的として、アンケート調査を実施した。

【調査対象・方法】

調査対象は、住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の満15歳以上の市民1,008人、伊勢市内に本社・支店を置く事業所1,000社、皇學館大学の学生305人とした。

調査方法は、市内在住の満15歳以上の市民及び市内事業所については郵送配布・郵送回収とし、皇學館大学の学生については大学（学生支援部学生支援課）を通じて配布・回収を行った。

【回収結果】

表 回収結果（平成26年9月末時点）

	配布数	回収数	回収率	(参考) 現行計画策定時
市内在住の満15歳以上の市民	1,008	411	40.8%	35.3%
市内事業所	1,000	388	38.8%	39.3%
皇學館大学の学生	—	305	—	—

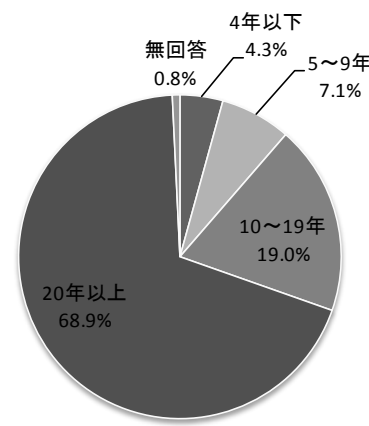
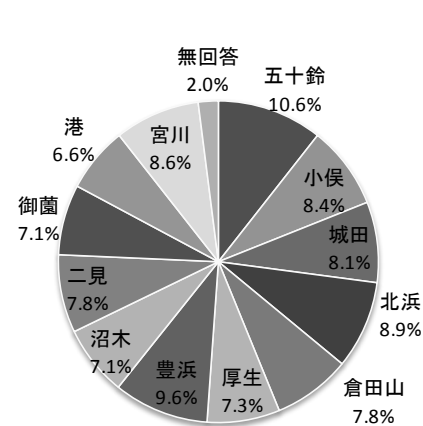
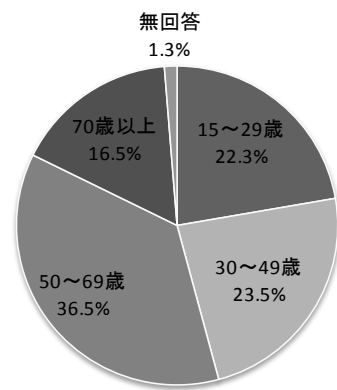
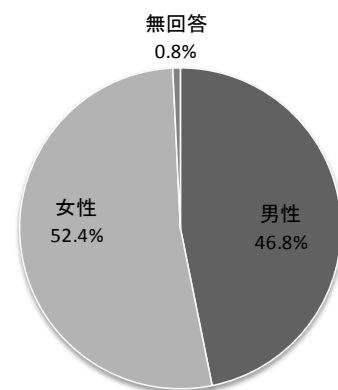
※なお、本報告は8月末までに回収された市民395件、事業所288件、大学生305件について集計したものである。残りの結果についても随時追加集計・分析を行っていく予定である。

回答者属性〈市民〉

○回答者のうち、男性は約53%、女性は約47%であり、年齢は、50～60歳代が約37%と最も多く、残りの年齢層がそれぞれ20%前後であった。

○居住地区については、五十鈴地区（五十鈴中学校区）が約11%で最も多く、最も少なかったのは港地区で約7%であり、いずれの地区も概ね同程度の回答割合であった。

○伊勢市に居住するようになってからの年数については、20年以上が約70%、10年以上では約90%となり、居住年数が長い方に多くご回答いただいた。

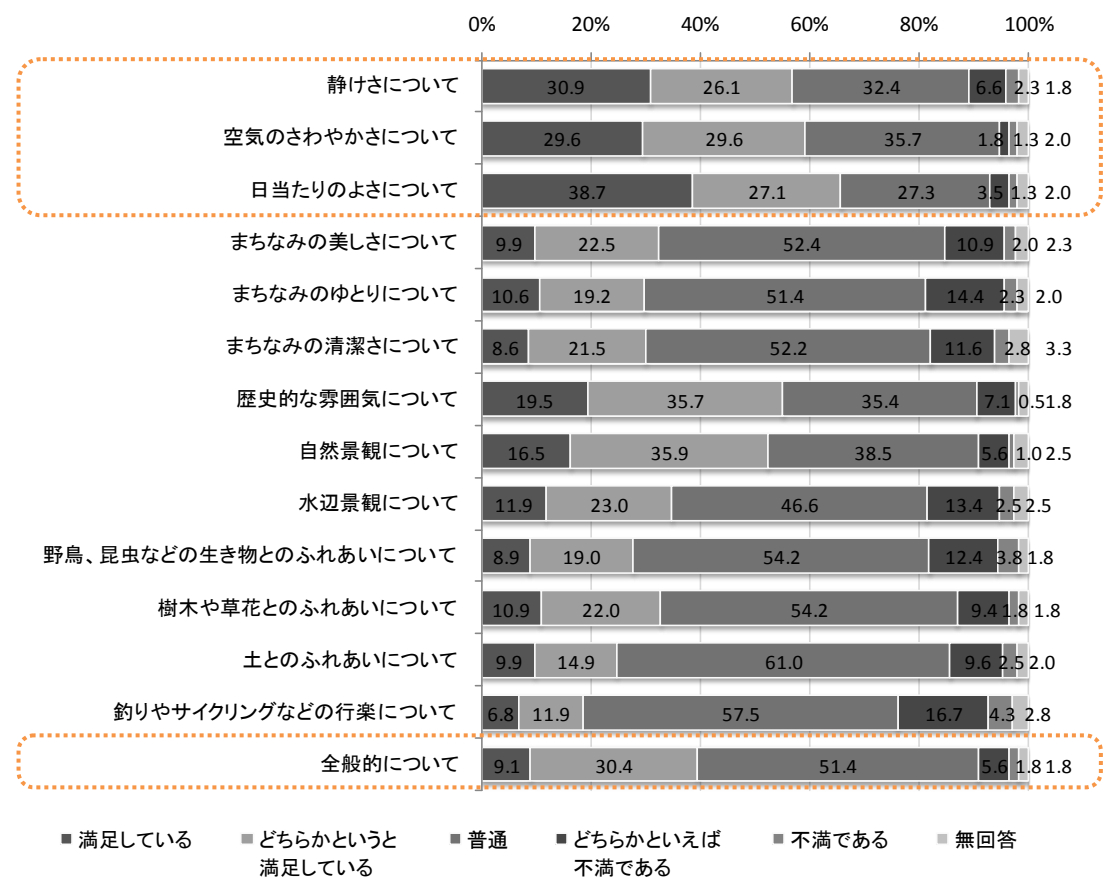


伊勢市の環境の現況に対する満足度〈市民〉

○伊勢市の環境の現況に対する満足度について、満足しているという回答割合が高かった項目としては、「日当たりのよさについて」「静けさについて」「空気のさわやかさについて」が挙げられ、生活環境の豊かさが市民に満足されていることが分かる。

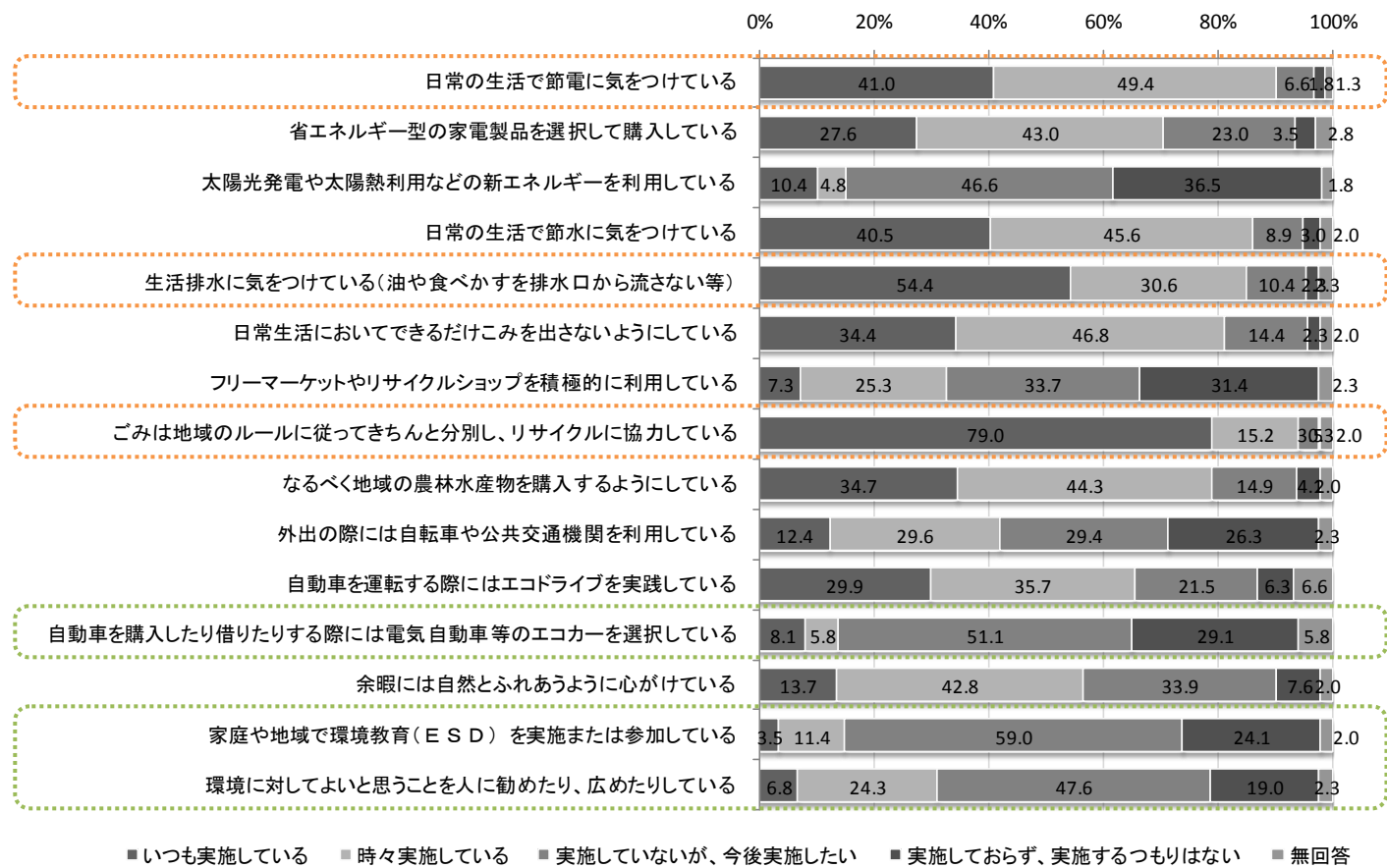
○一方で、不満であるという回答割合が高かった項目としては、「釣りやサイクリングなどの行楽について」「まちなみのゆとりについて」「水辺景観について」が挙げられた。

○全般的な環境については、満足している（どちらかという満足しているを含む）という回答が約40%、不満である（どちらかという不満であるを含む）という回答は約7%であった。現行計画策定時の結果と比較すると、満足しているという回答割合（現行計画策定時：約18%）は増加し、不満であるという回答割合（現行計画策定時：約19%）は減少している。



環境保全の取組状況〈市民〉

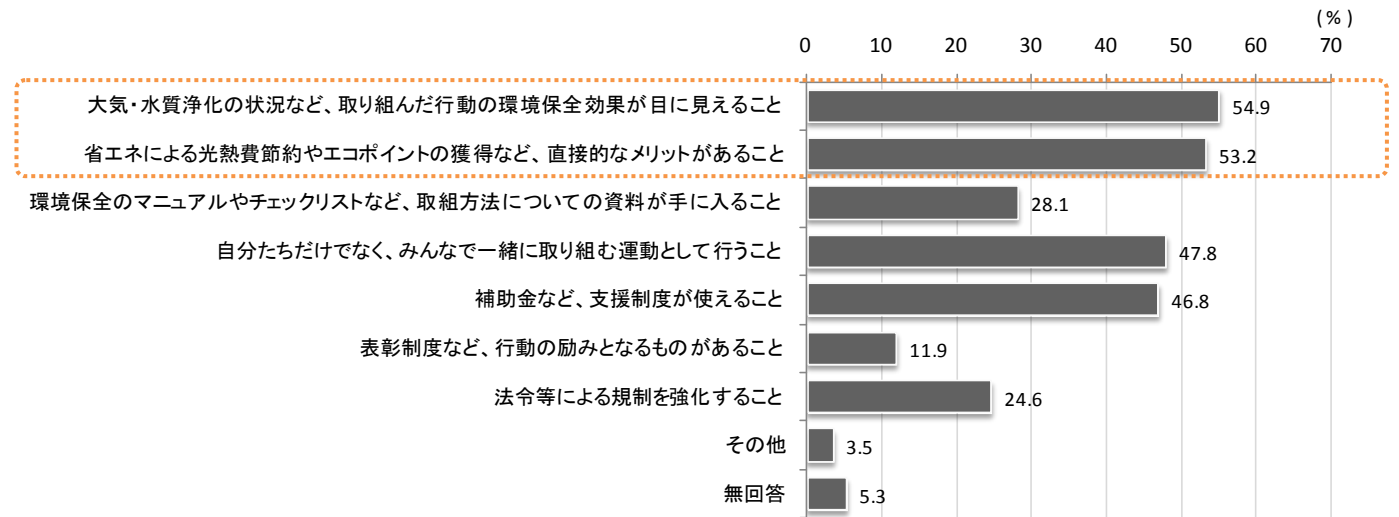
○市民の環境保全の取組の実施状況をみると、「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別し、リサイクルに協力している」については約8割が日常的に実施しており、「生活排水に気をつけている」「日常の生活で節電に気をつけている」「日常の生活で節水に気をつけている」についても意識的に取り組まれていることが分かる。○現在は実施していないものの今後実施したい取組としては、「家庭や地域で環境教育（ESD）を実施または参加している」「環境に対してよいと思うことを人に勧めたり、広めたりしている」といった環境保全の普及・促進に関する取組みや、「自動車を購入したり借りたりする際には電気自動車などのエコカーを選択している」「太陽光発電や太陽熱利用などの新エネルギーを利用している」といった、伊勢市が現在取り組んでいる『おかげさま Action!』に係る取組みや、新エネルギーの導入に関する取組みが挙げられた。



■環境保全の取組の実施状況【N=411】

環境保全の取り組みを促進するために必要なこと〈市民〉

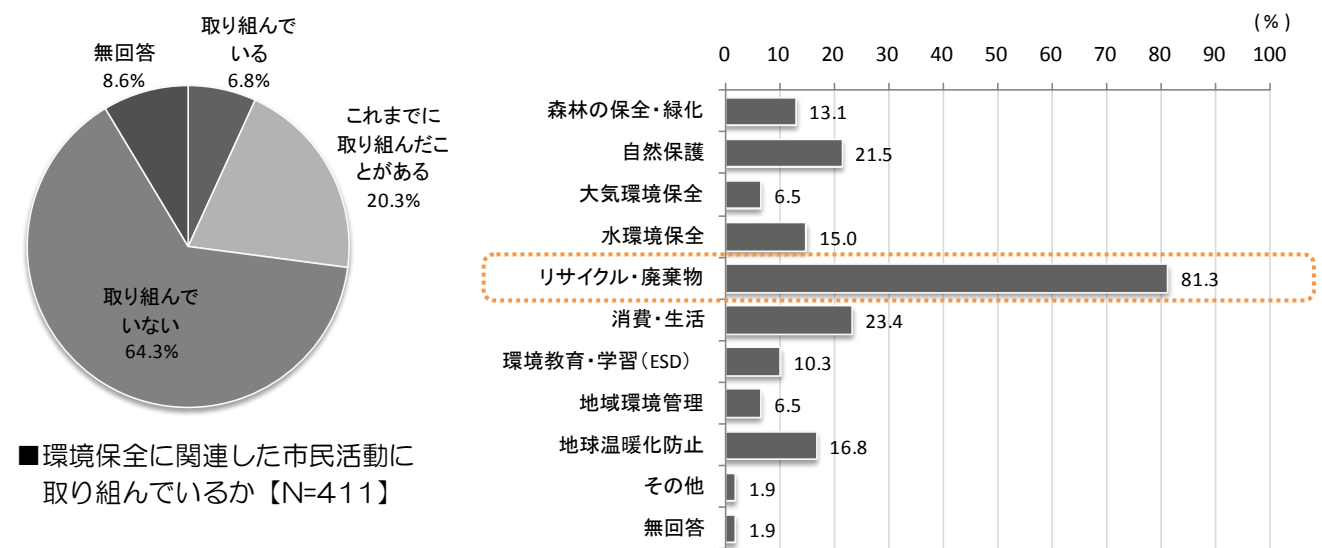
○より積極的に環境保全に取り組んでもらうために必要なこととしては、「大気・水質浄化の状況など、取り組んだ行動の環境保全効果が目に見えること」「省エネによる光熱費節約やエコポイントの獲得など、直接的なメリットがあること」といった、取り組みの実施による直接的効果（アウトプット）、間接的効果（アウトカム）が求められていることが分かる。また、「自分たちだけでなく、みんなで一緒に取り組む運動として行うこと」のように、協働による取り組みも必要と考えられている。



■より積極的に環境保全に取り組んでもらうために必要なこと【N=411】

環境保全に関連した市民活動の取組状況〈市民〉

○環境保全に関連した市民活動の取組状況については、「取り組んでいない」が6割以上であった。○「取り組んでいる」「これまでに取り組んだことがある」と回答した人の活動内容としては、「リサイクル・廃棄物」に関する取り組みが圧倒的に多かった。



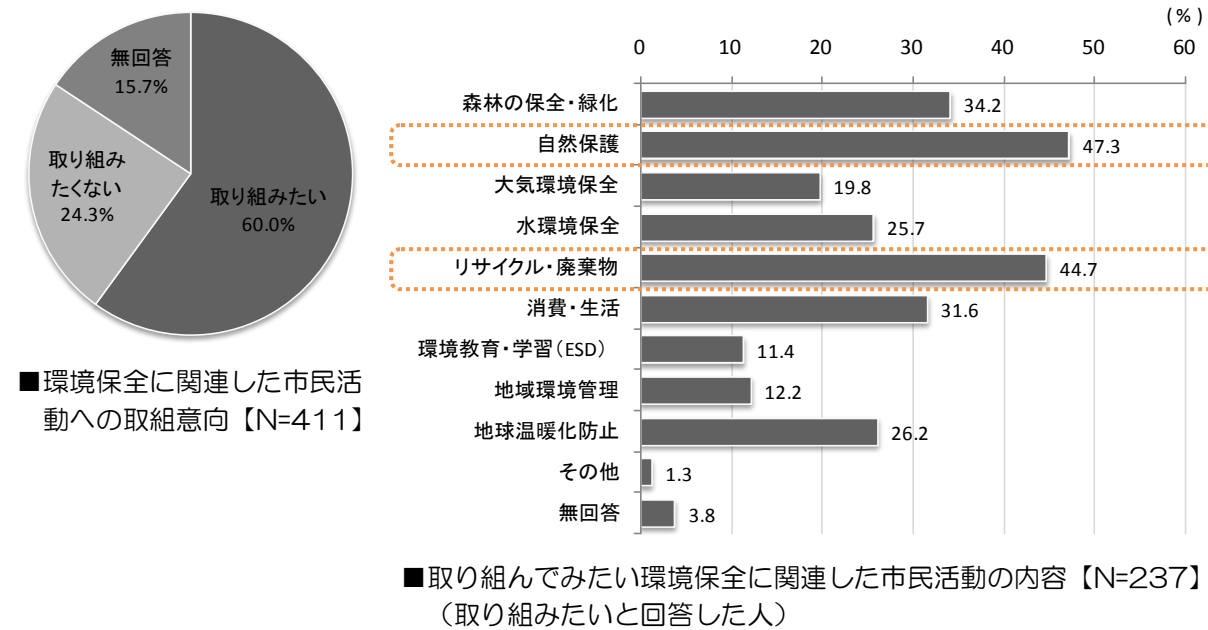
■環境保全に関連した市民活動に取り組んでいるか【N=411】

■環境保全に関連した市民活動の内容【N=107】
(取り組んでいる、過去に取り組んだことがあると回答した人)

環境保全に関連した市民活動の取組状況〈市民〉

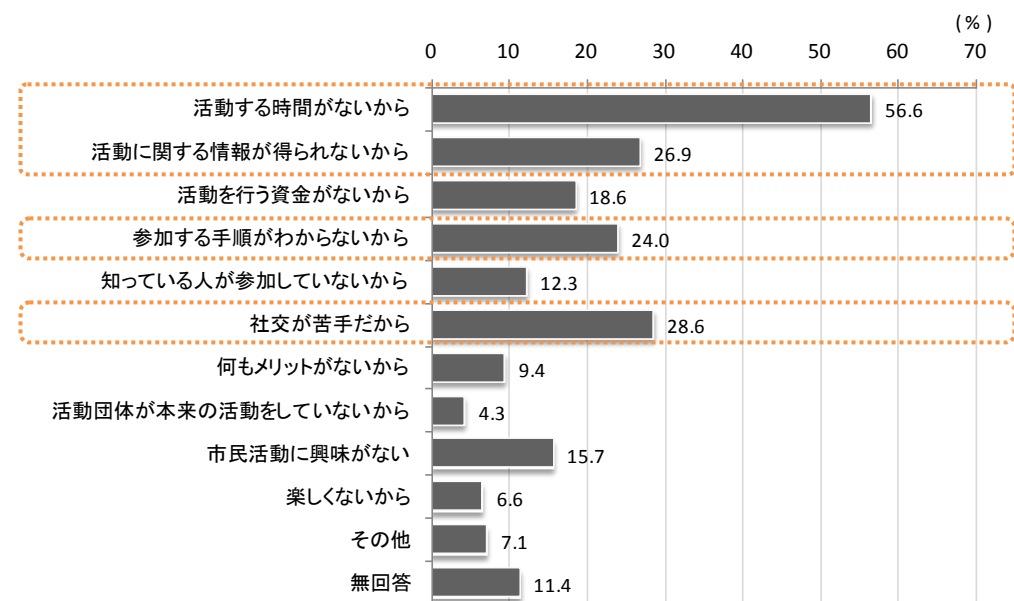
○環境保全に関連した市民活動への今後の参加意向については、「取り組みたい」が6割であった。

○「取り組みたい」と回答した人の、取り組んでみたい活動内容としては、「自然保護」に関する取り組みが約47%、「リサイクル・廃棄物」に関する取り組みが約45%であった。



市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由〈市民〉

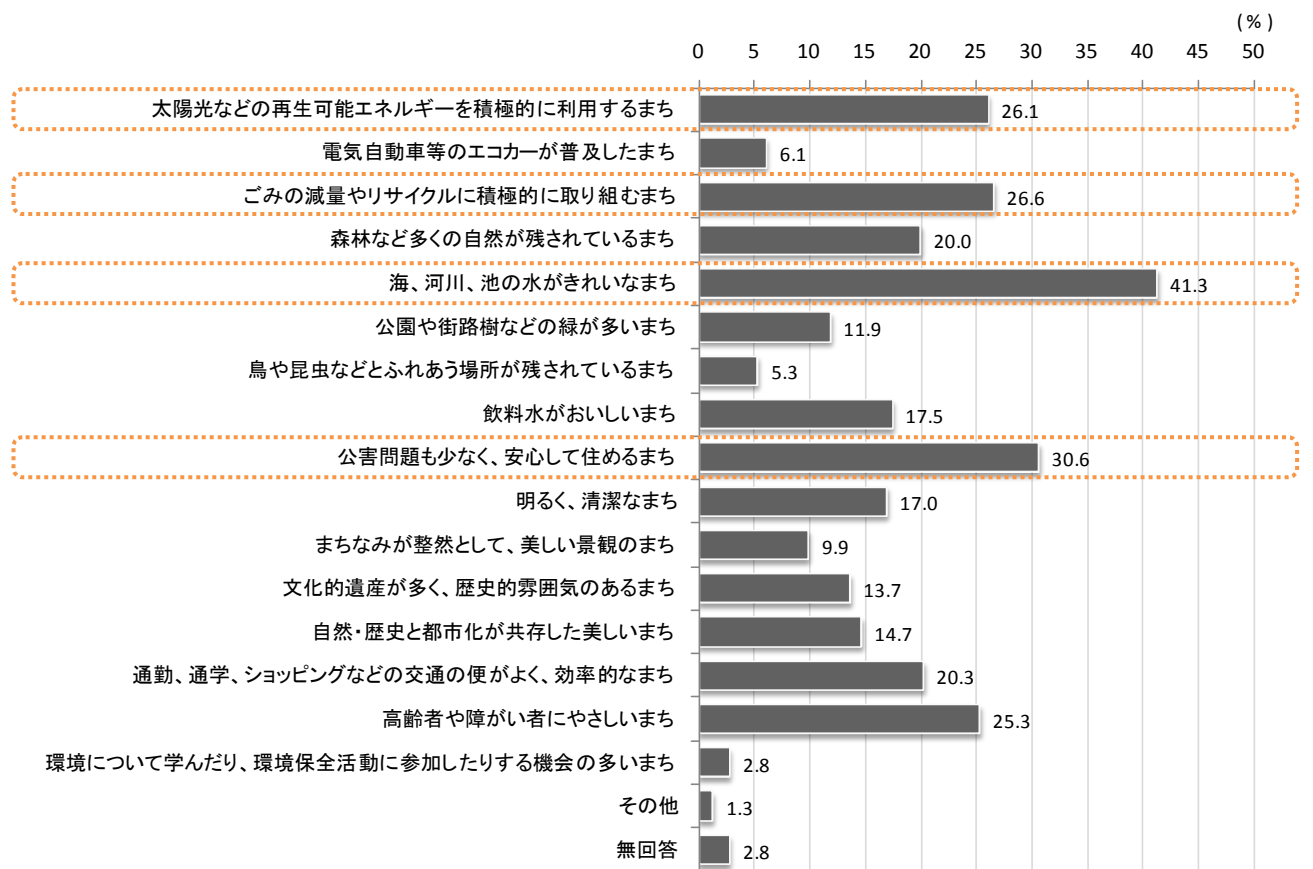
○環境保全に関する市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由としては、「活動する時間がないから」が約57%で最も多く、次いで「社交が苦手だから」であった。その他には、「活動に関する情報が得られないから」「参加する手順がわからないから」といった回答も多く、市民活動の内容や参加方法等に関する情報提供を充実することで、こうした活動がより活発になることが考えられる。



伊勢市がめざすまちの姿〈市民〉

○環境分野で、伊勢市が今後どのようなまちになるとよいかについては、「海、河川、池の水がきれいなまち」が最も多く、次いで「公害問題も少なく、安心して住めるまち」「ごみの減量やリサイクルに積極的に取り組むまち」「太陽光などの再生可能エネルギーを積極的に利用するまち」が挙げられた。

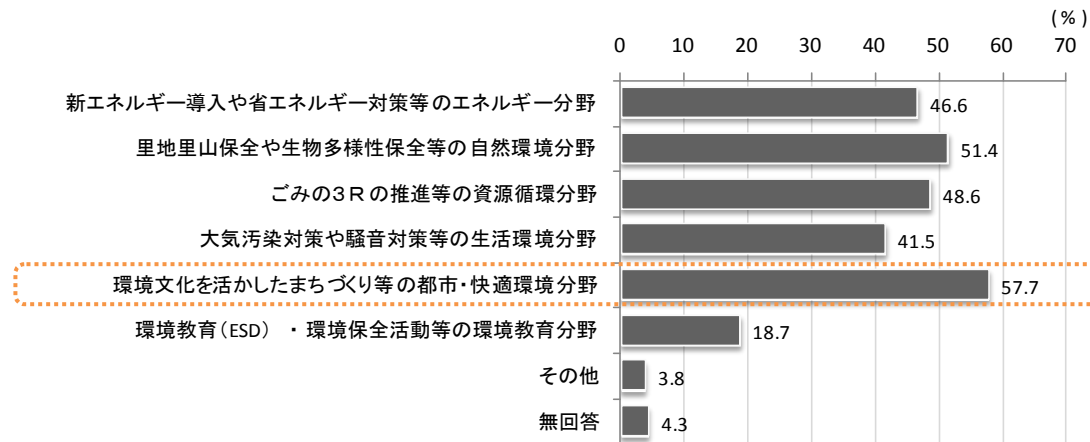
○国の第四次環境基本計画において、目指すべき持続可能な社会の姿として、「安全」が確保されることを前提として、「低炭素」「循環」「自然共生」の各分野が、各主体の参加の下で統合的に達成され、健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域にわたって保全される社会とされており、伊勢市においてもこうした持続可能な社会をめざすことが求められている。



伊勢市が今後重点的に取り組むべき分野〈市民〉

○伊勢市が今後重点を置いて取り組みを進めていくべき分野としては、「環境文化を活かしたまちづくり等の都市・快適環境分野」や約58%と最も多かった。

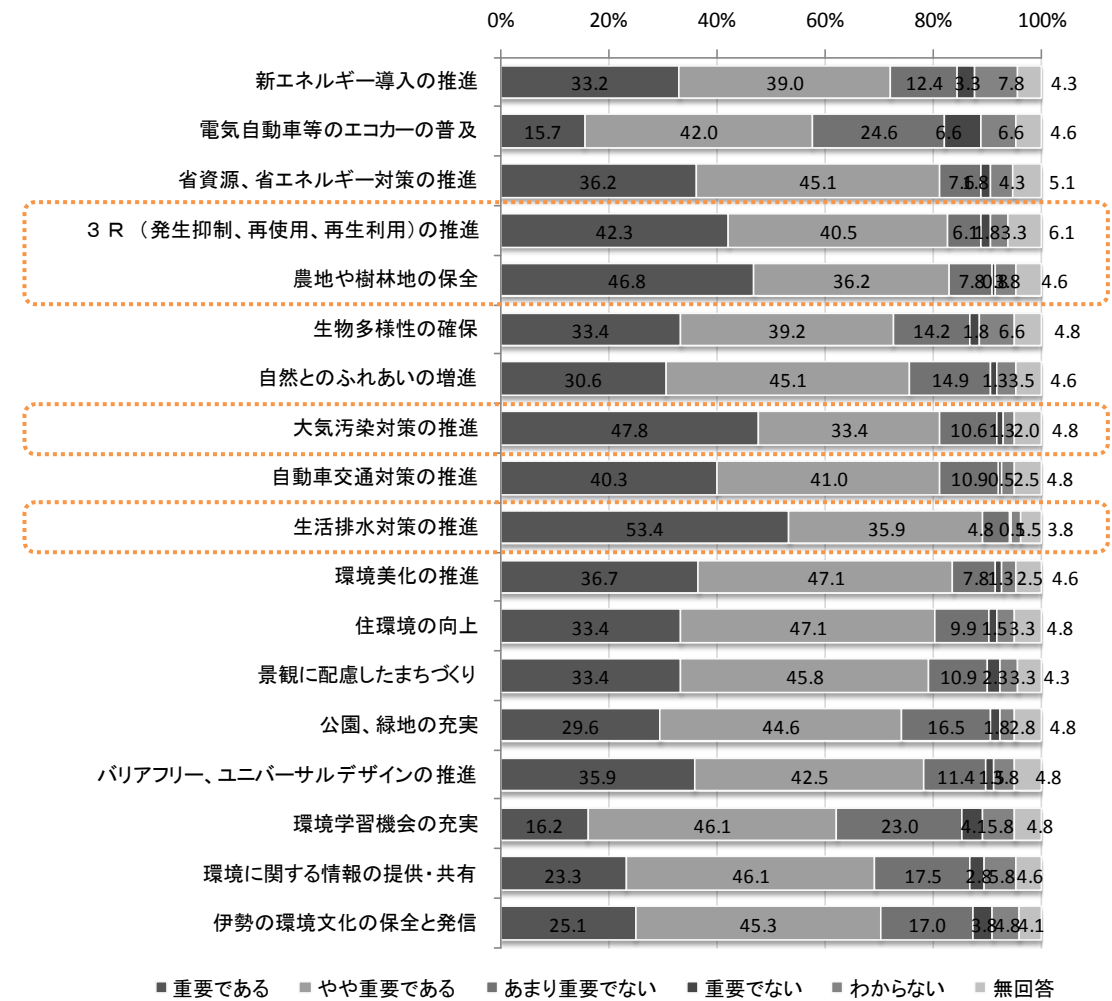
○伊勢市では、遷宮をはじめとするリサイクル文化の発祥の地であり、「レジ袋大幅削減・マイバック持参運動」へも多くの市民が参加している。その他、おもてなしの心を活かした「おかげさま Action!」にも取り組んでおり、こうした取り組みのさらなる活性化も求められている。



■今後、伊勢市ではどのような分野に重点を置いて取り組みを進めていくべきか【N=411】

伊勢市が重点的に取り組むべき施策〈市民〉

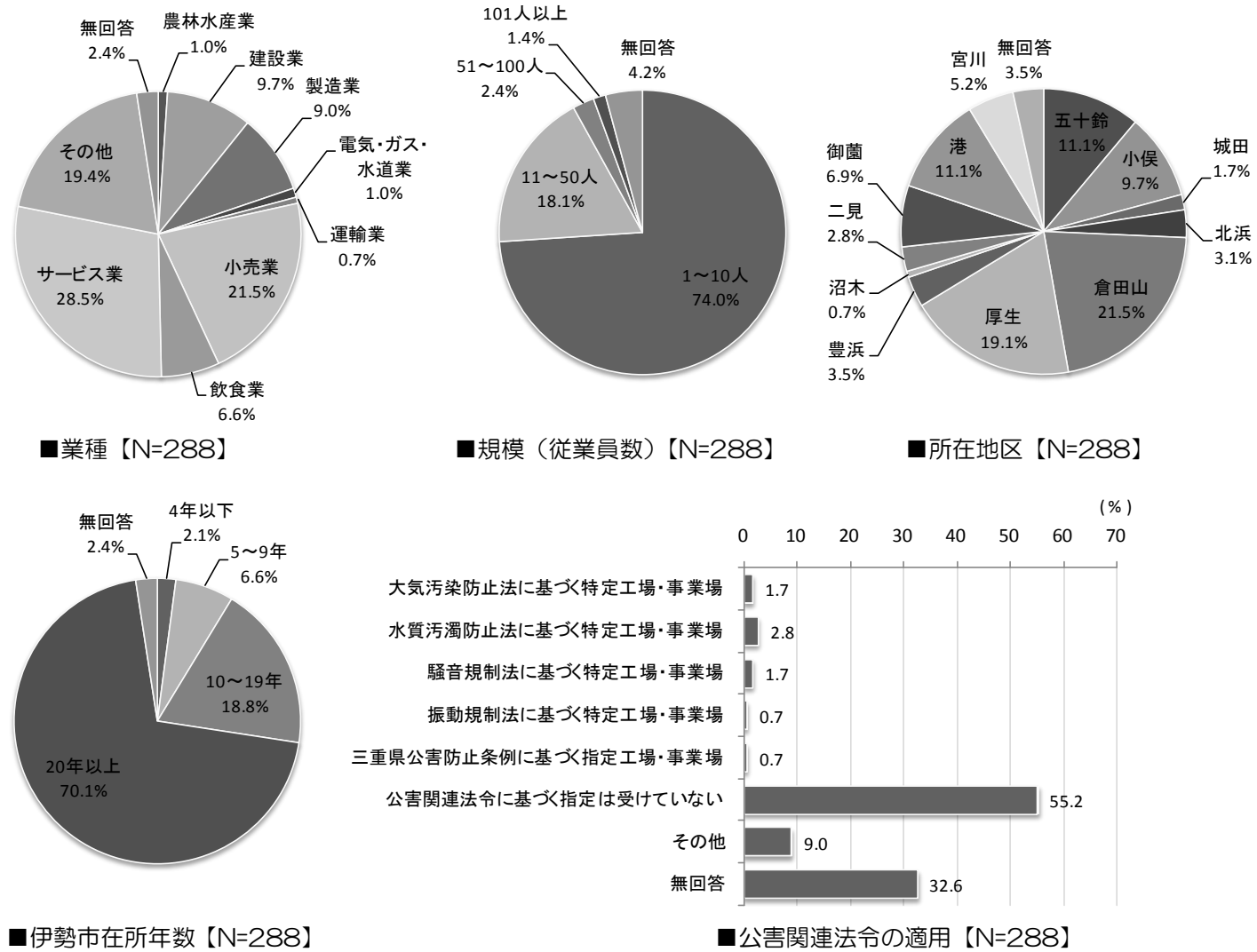
○伊勢市の環境づくりに関する取り組みの重要度については、「生活排水対策の推進」「大気汚染対策の推進」「農地や樹林地の保全」「3Rの推進」といった取り組みについて特に重要であると考えられている。



■伊勢市の環境づくりに関する取り組みの重要度【N=411】

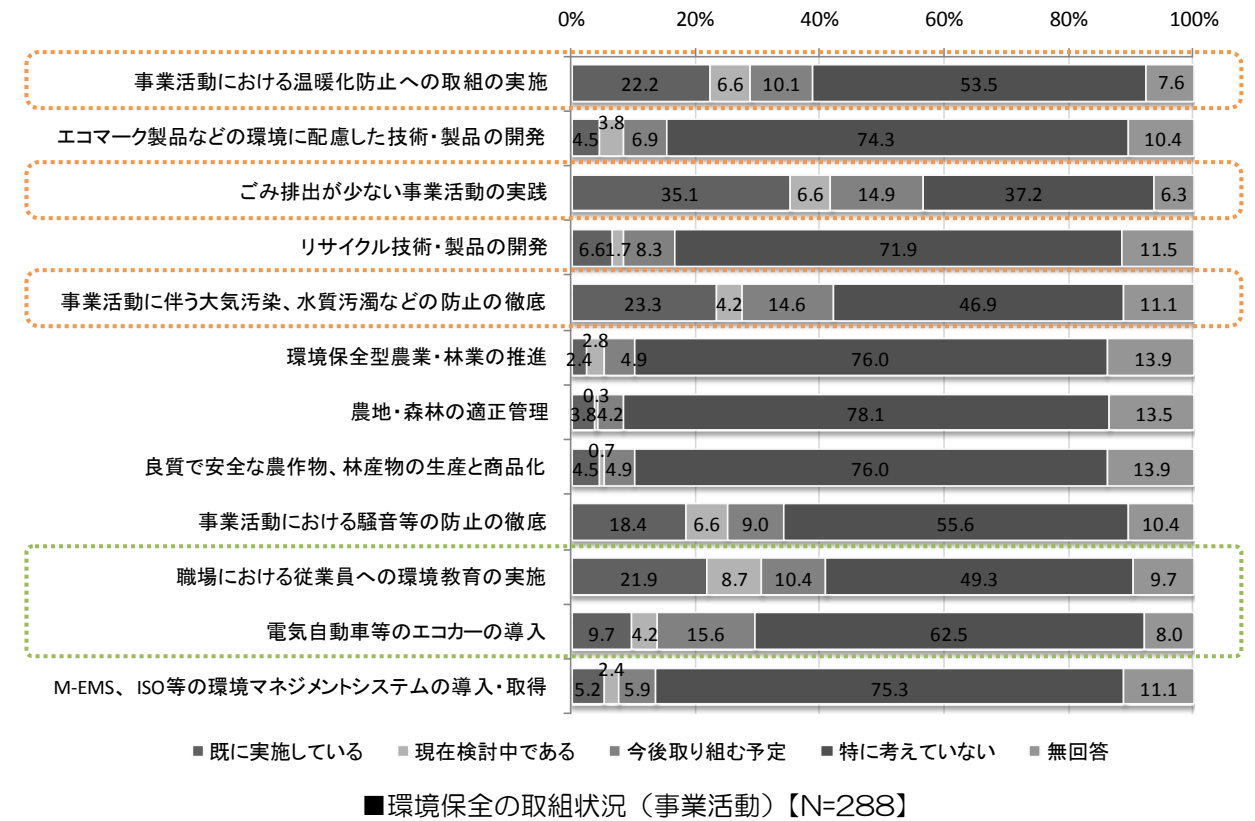
回答者属性 〈事業所〉

○回答いただいた事業所について、業種では「サービス業」が約3割、「小売業」が約2割と比較的多く、規模（従業員数）では「1～10人」の事業所が7割以上と、比較的小規模な事業所が多かった。
 ○事業所の所在地区では、「倉田山（倉田山中学校区）」「厚生（厚生中学校区）」が2割前後と比較的多く、伊勢市内の在り年数は「20年以上」の事業所が約7割であった。



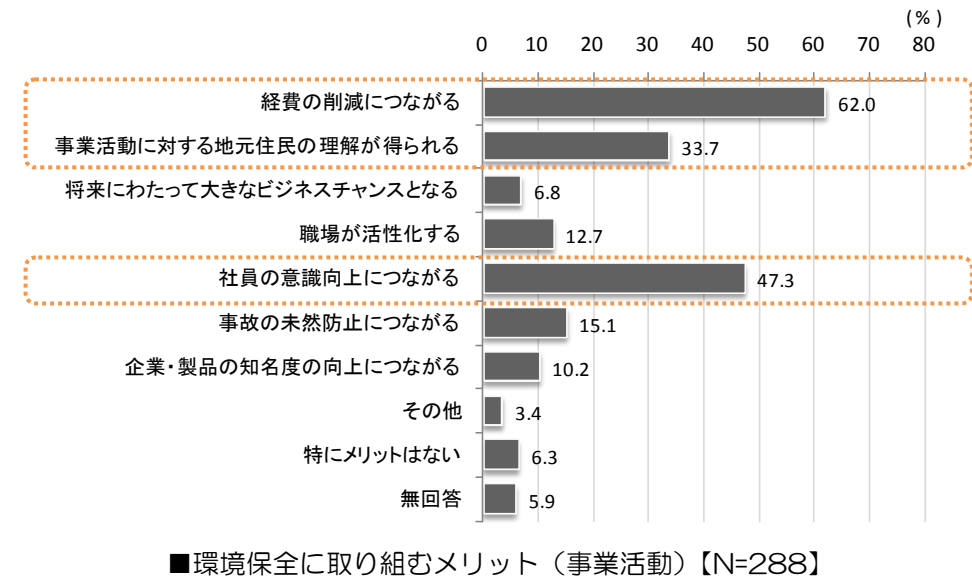
環境保全の取組状況（事業活動）〈事業所〉

○事業活動に関する環境保全の取り組みについては、いずれの項目においても特に考えていないという回答の割合が高かった。既に実施している割合の高い取り組みとしては、「ごみ排出が少ない事業活動の実践」「事業活動に伴う大気汚染、水質汚濁などの防止の徹底」「事業活動における温暖化防止への取組の実施」であった。
 ○現在検討中である、今後取り組む予定の割合が高かった取り組みとしては、「ごみ排出が少ない事業活動の実践」「電気自動車等のエコカーの導入」「職場における従業員への環境教育の実施」が挙げられた。



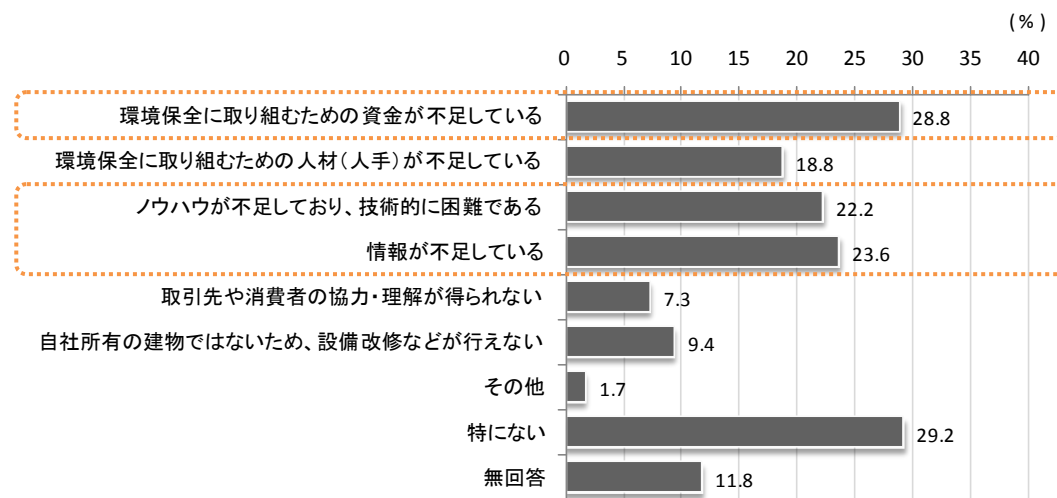
環境保全に取り組むメリット（事業活動）〈事業所〉

○事業活動に関する環境保全に取り組むメリットとしては、「経費の削減につながる」「社員の意識向上につながる」のほか、「事業活動に対する地元住民の理解が得られる」の回答割合が高かった。



環境保全に取り組む上での課題（事業活動）〈事業所〉

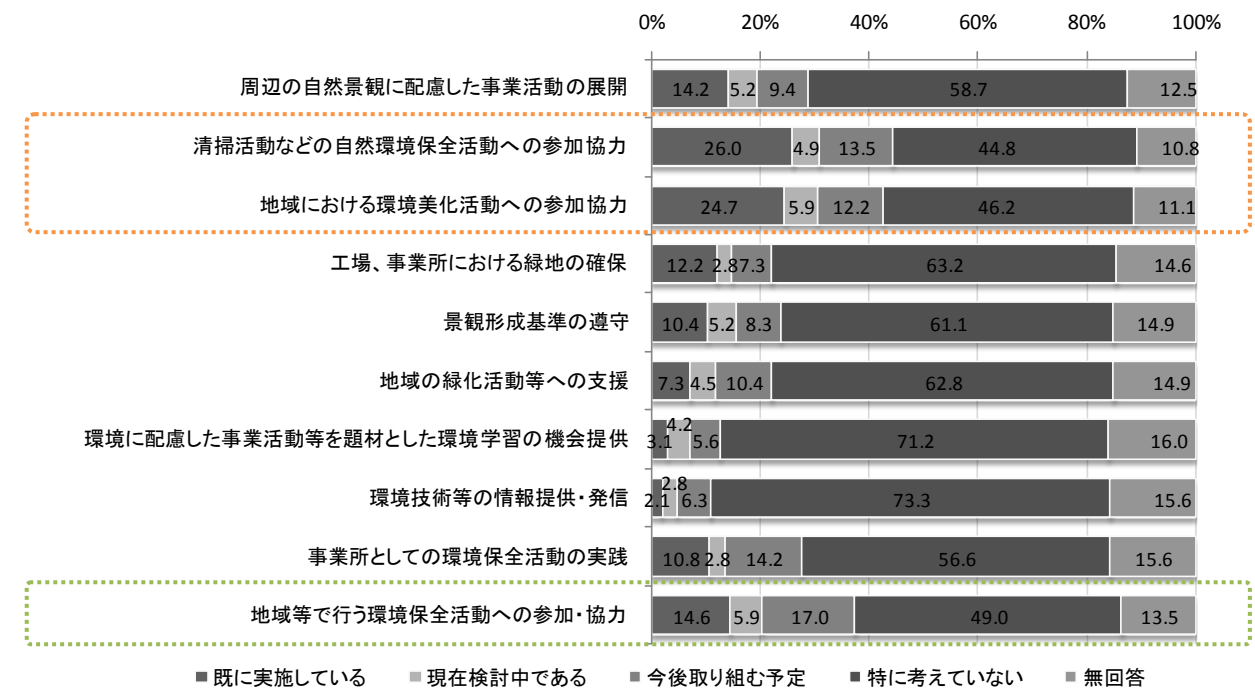
○事業活動に関する環境保全に取り組む上での課題としては、「特にない」が最も多かったものの、「環境保全に取り組むための資金が不足している」「情報が不足している」「ノウハウが不足しており、技術的に困難である」という回答割合が高かった。



■環境保全に取り組む上での課題（事業活動）【N=288】

環境保全の取組状況（社会貢献活動）〈事業所〉

○社会貢献活動に関する環境保全の取り組みについては、事業活動に関する環境保全の取り組みと同様、いずれの項目においても特に考えていないという回答の割合が高かった。既に実施している割合の高い取り組みとしては、「清掃活動などの自然環境保全活動への参加協力」「地域における環境美化活動への参加協力」であった。
○現在検討中である、今後取り組む予定の割合が高かった取り組みとしては、「地域等で行う環境保全活動への参加協力」が挙げられた。

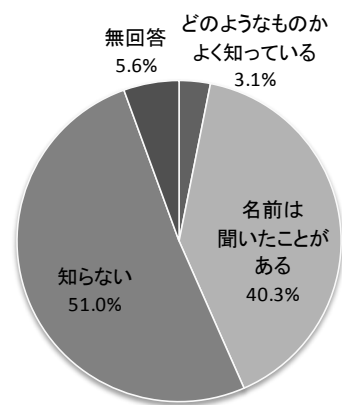


■環境保全の取組状況（社会貢献活動）【N=288】

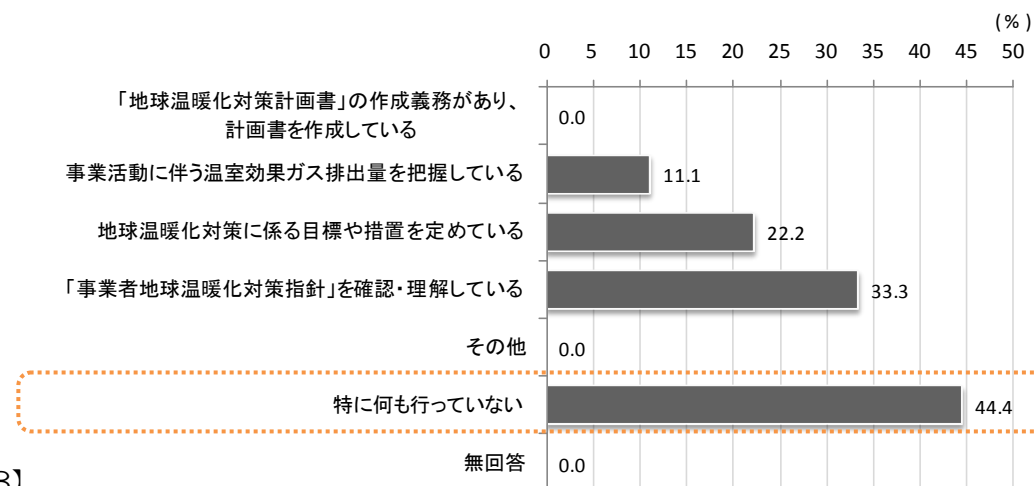
「三重県地球温暖化対策推進条例」について〈事業所〉

○「三重県地球温暖化対策推進条例」の認知度については、「知らない」という事業所が約半数であり、「どのようなものかよく知っている」と回答した事業所はわずか3%であった。

○「どのようなものかよく知っている」と回答した事業所のうち、約4割は「特に何も行っていない」と回答している。



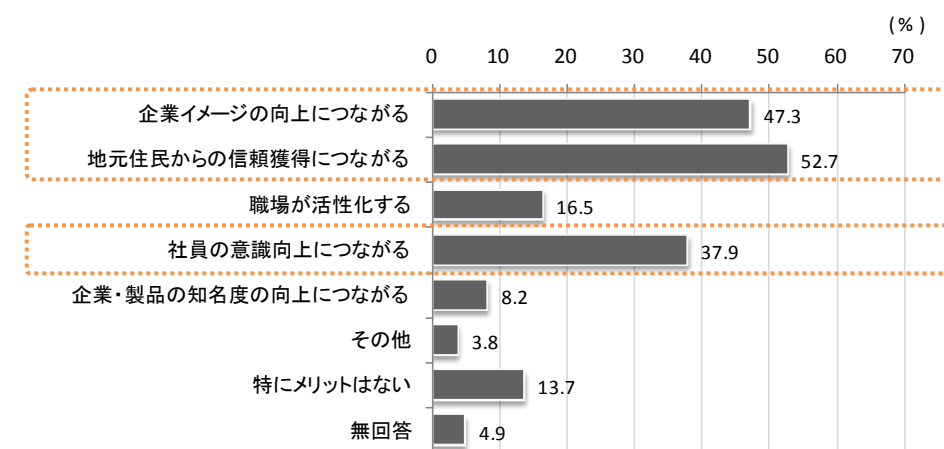
■「三重県地球温暖化対策推進条例」の認知度【N=288】



■「三重県地球温暖化対策推進条例」に基づく取り組み【N=9】

環境保全に取り組むメリット（社会貢献活動）〈事業所〉

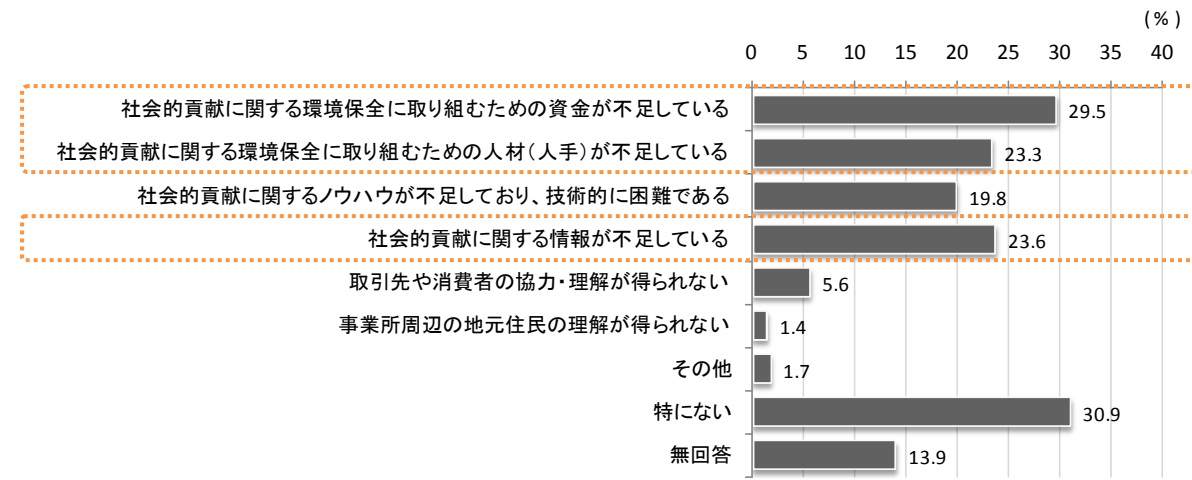
○社会貢献活動に関する環境保全に取り組むメリットとしては、「地元住民からの信頼獲得につながる」「企業イメージの向上につながる」「社員の意識向上につながる」の回答割合が高かった。



■環境保全に取り組むメリット（社会貢献活動）【N=288】

環境保全に取り組む上での課題（社会貢献活動）〈事業所〉

○社会貢献活動に関する環境保全に取り組む上での課題としては、「社会的貢献に関する環境保全に取り組むための資金が不足している」「社会的貢献に関する情報が不足している」「社会的貢献に関する環境保全に取り組むための人材（人手）が不足している」という回答割合が高かった。

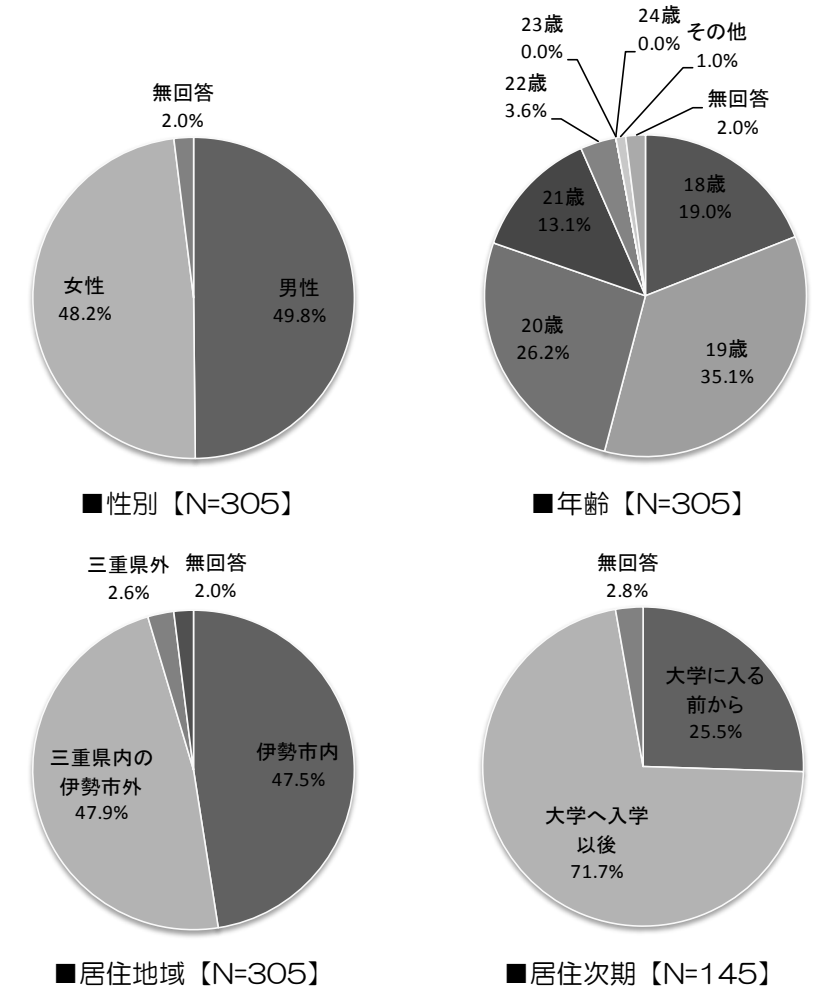


■環境保全に取り組む上での課題（社会貢献活動）【N=288】

回答者属性〈大学生〉

○回答者のうち、男性と女性の割合はほぼ同じであり、年齢は19歳が約35%、20歳が約26%、18歳が約19%であった。

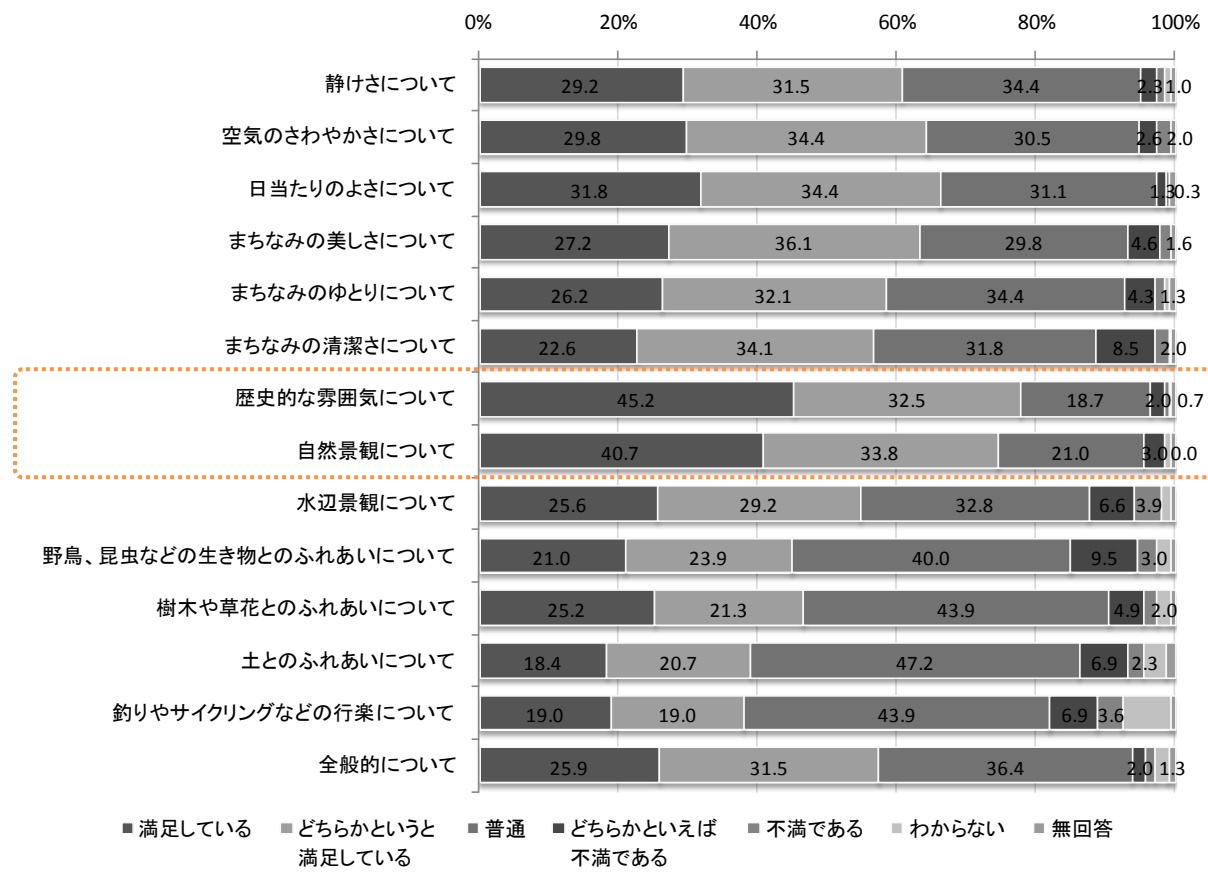
○居住地では、「伊勢市内」と「三重県内の伊勢市街」がほぼ同じ割合であり「伊勢市内」に居住している人のうち、「大学へ入学以降」と回答した人が約7割であった。



伊勢市の環境の現況に対する満足度〈大学生〉

○伊勢市の環境の現況に対する満足度について、満足しているという回答割合が高かった項目としては、「歴史的な雰囲気について」「自然景観について」が挙げられた。一方で、不満であるという回答割合が高かった項目としては、「土とのふれあいについて」「樹木や草花とのふれあいについて」などが挙げられ、自然とのふれあいの場・機会が少ないことに不満を抱いていることがわかる。

○全般的な環境については、満足している（どちらかという満足しているを含む）という回答が約57%、不満である（どちらかという不満であるを含む）という回答は約3%であった。現行計画策定時の結果と比較すると、満足しているという回答割合（現行計画策定時：約39%）は増加し、不満であるという回答割合（現行計画策定時：約19%）は減少している。

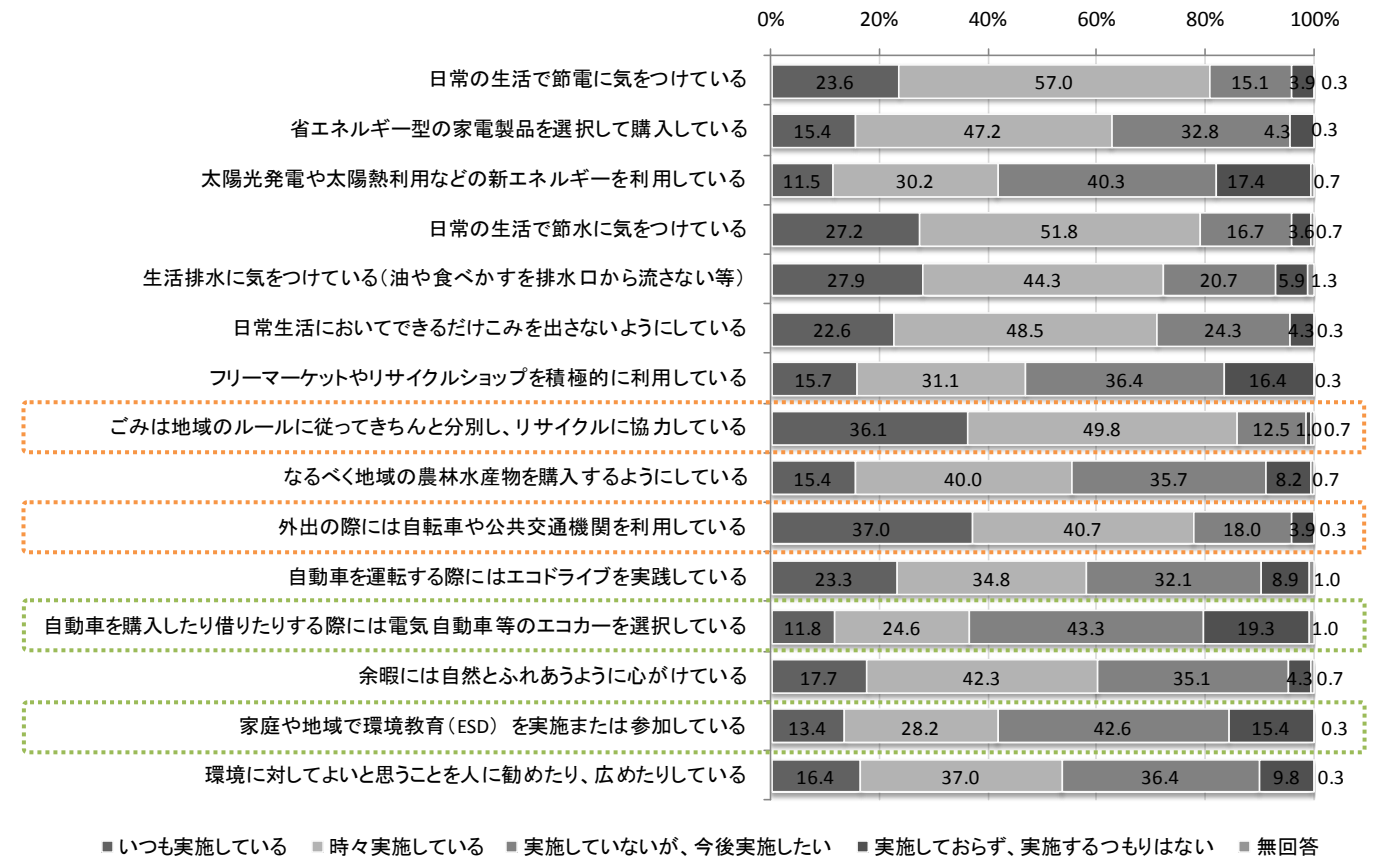


■伊勢市の環境の現況に対する満足度【N=305】

環境保全の取組状況について〈大学生〉

○環境保全の取り組みの実施状況については、「外出の際には自転車や公共交通機関を利用している」「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別し、リサイクルに協力している」といった取り組みについて日常的に取り組まれている。

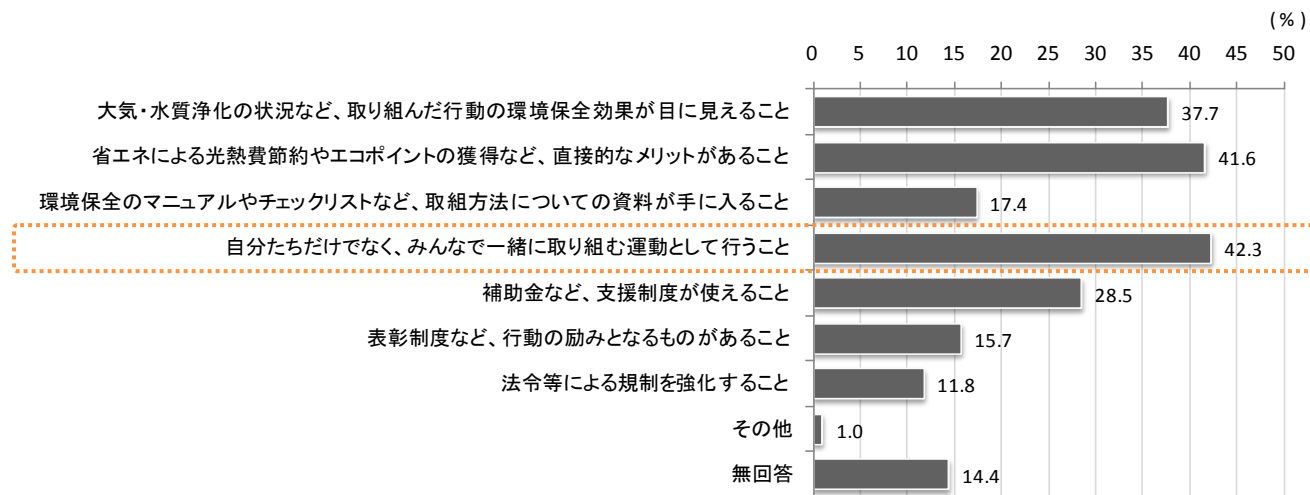
○現在は実施していないが、今後実施したい取り組みとしては、市民の回答と同様に、「家庭や地域で環境教育（ESD）を実施または参加している」「環境に対してよいと思うことを人に勧めたり、広めたりしている」といった環境保全の普及・促進に関する取り組みや、「太陽光発電や太陽熱利用などの新エネルギーを利用している」などが多く挙げられた。



■環境保全の取り組みの実施状況【N=305】

環境保全の取り組みを推進するために必要なこと〈大学生〉

○より積極的に環境保全に取り組むために必要なこととしては、大学生においては、「自分たちだけでなく、みんなと一緒に取り組む運動として行うこと」が最も多かった。

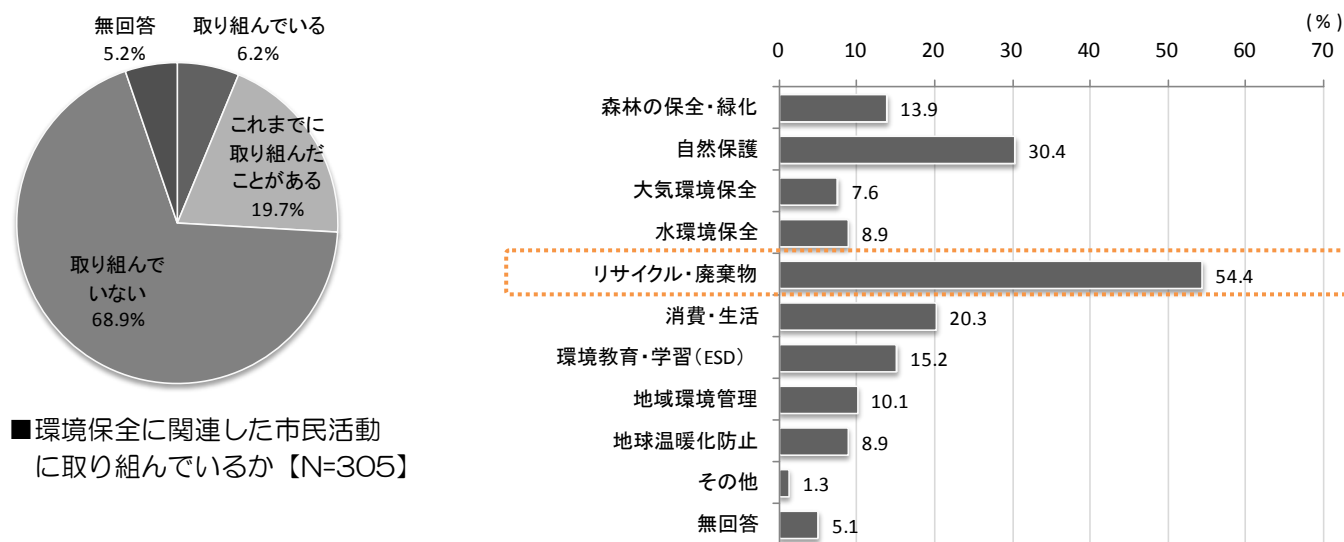


■より積極的に環境保全に取り組んでもらうために必要なこと【N=305】

環境保全に関連した市民活動の取組状況〈大学生〉

○環境保全に関連した市民活動の取組状況については、「取り組んでいない」が約7割であった。

○「取り組んでいる」「これまでに取り組んだことがある」と回答した人の活動内容としては、「リサイクル・廃棄物」に関する取り組みが最も多く、市民と同様の結果であった。

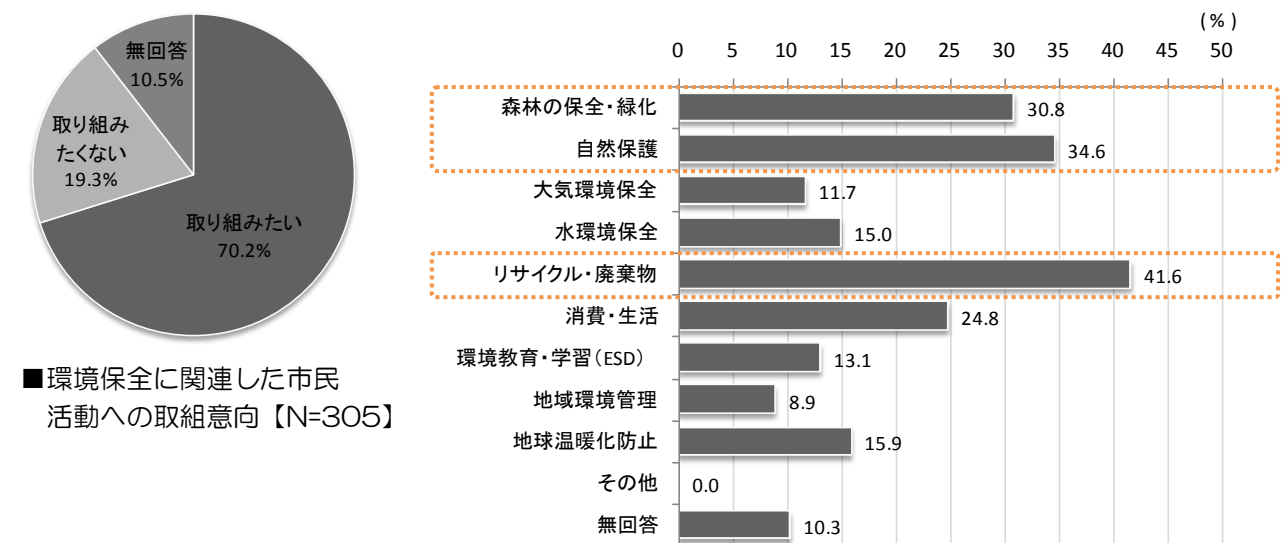


■環境保全に関連した市民活動の内容【N=79】
(取り組んでいる、過去に取り組んだことがあると回答した人)

環境保全に関連した市民活動の取組状況〈大学生〉

○環境保全に関連した市民活動への今後の参加意向については、「取り組みたい」が約7割であった。

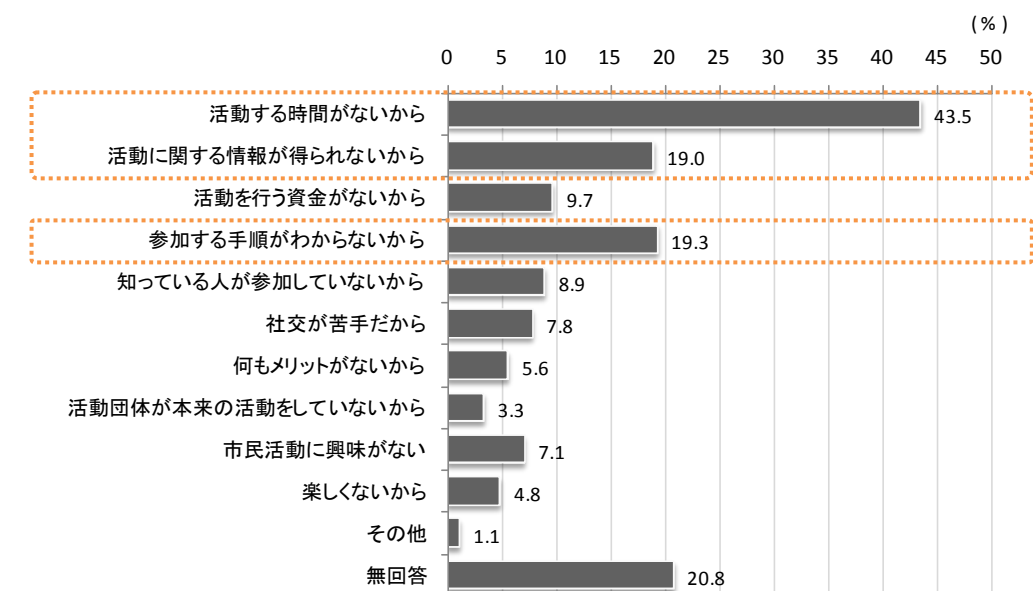
○「取り組みたい」と回答した人の、取り組んでみたい活動内容としては、「リサイクル・廃棄物」に関する取り組みが約42%、「自然保護」に関する取り組みが約35%であった。



■取り組んでみたい環境保全に関連した市民活動の内容【N=214】
(取り組みたいと回答した人)

市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由〈大学生〉

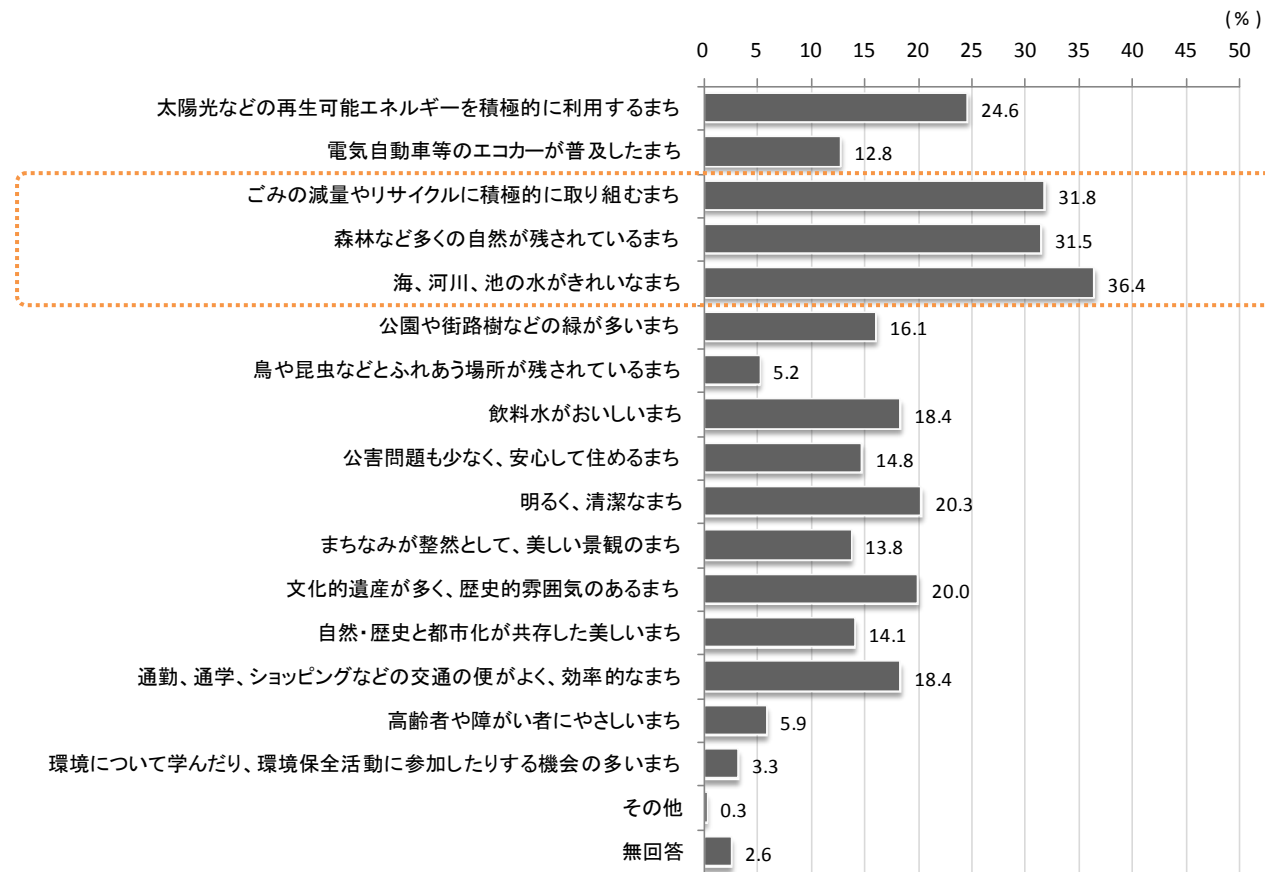
○環境保全に関する市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由としては、「活動する時間がないから」が約44%で最も多く、次いで「参加する手順がわからないから」「活動に関する情報が得られないから」であり、市民と同様に、市民活動の内容や参加方法等に関する情報提供を充実することで、こうした活動がより活発になることが考えられる。



■環境保全に関連した市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由【N=269】
(取り組んでいない、取り組みたくないと回答した人)

伊勢市がめざすまちの姿〈大学生〉

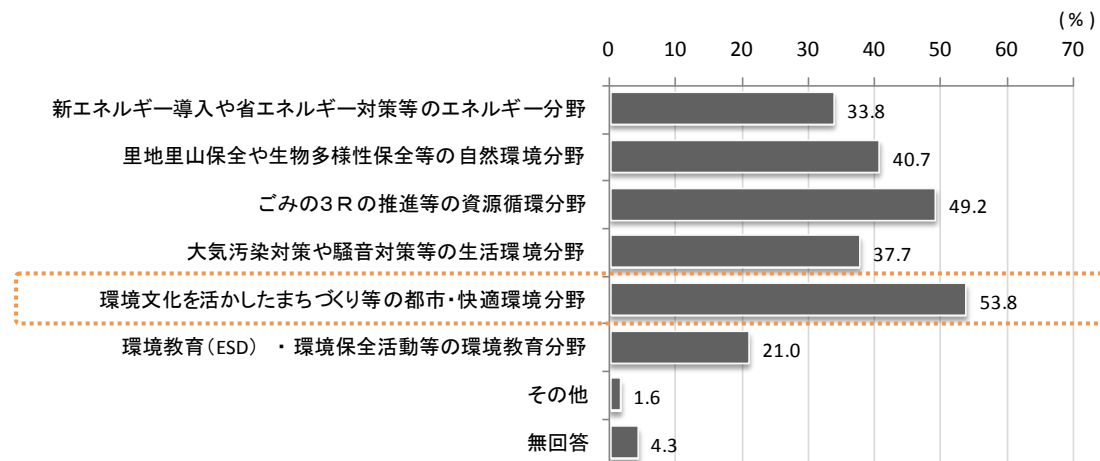
○環境分野で、伊勢市が今後どのようなまちになるとよいかについては、「海、河川、池の水がきれいなまち」が最も多く、次いで「ごみの減量やリサイクルに積極的に取り組むまち」「森林などの多くの自然が残されている街」が挙げられた。



■環境分野で、伊勢市が今後どのようなまちになるとよいと思うか【N=305】

伊勢市が今後重点的に取り組むべき分野〈大学生〉

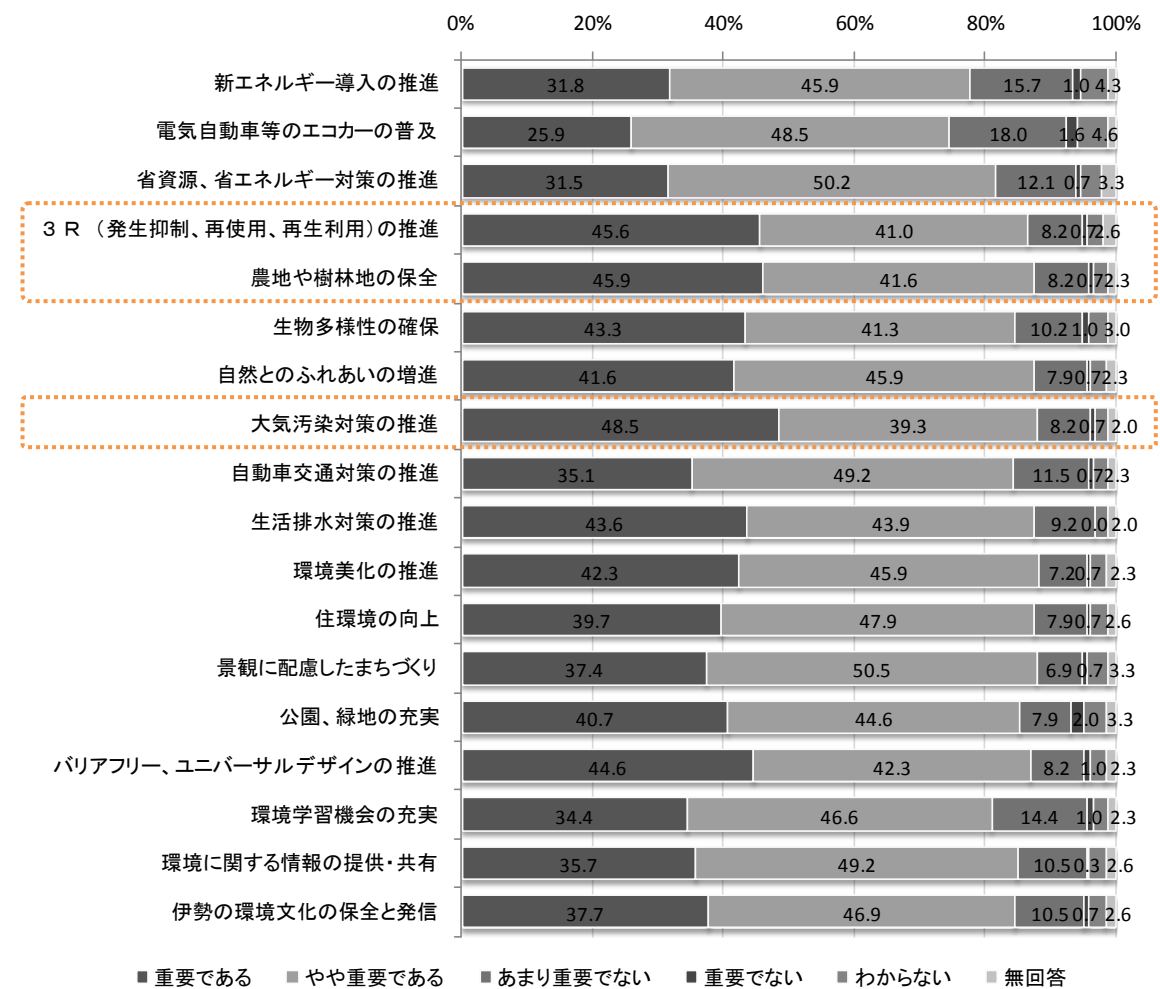
○伊勢市が今後重点を置いて取り組みを進めていくべき分野としては、「環境文化を活かしたまちづくり等の都市・快適環境分野」や約54%と最も多く、市民と同様の結果であった。



■今後、伊勢市ではどのような分野に重点を置いて取り組みを進めていくべきか【N=305】

伊勢市が重点的に取り組むべき施策〈大学生〉

○伊勢市の環境づくりに関する取り組みの重要度については、「大気汚染対策の推進」「農地や樹林地の保全」「3Rの推進」といった取り組みについて特に重要であると考えられている。



■伊勢市の環境づくりに関する取り組みの重要度【N=305】